



学校だより

川越市立山田中学校

令和2年12月2日 発行

善意に感謝して、心穏やかに

校長 大澤由美子

物事をどのように受け取るかで、心持ちが変わります。同じ状況にあっても、受け取り方や感じ方は、人それぞれです。人と人が交われば、いろいろなことがあります。時には、嫌な感情を抱いたり、自分の思いどおりにならずに苦しんだり、悩んだりすることもあります。それぞれに自分の思いがあるように、相手にも思いがあります。私は、相手の善意を感じ取れることが、人との関わりにおいて大切だと思っています。改めて考えてみると、日常の様々なできごとが、多くの人の支えや善意の上に成り立っていることがわかります。友達、先輩、後輩、家族、先生、地域の方…。いろいろな人が温かい気持ちで関わってくれていることに気付くと、感謝の気持ちが生まれます。厳しい言葉でも、本人のことを大切に思っていてくれる場合もあります。自分の思いどおりではなかったけれど、相手は相手なりに一生懸命考えて行動してくれていることもあります。その心の部分に目を向けると、心持ちが大きく変わります。自分の思いどおりに物事が進むのが当たり前、そして、そうならないのは相手が悪いととらえていては、不満がつります。それは残念なことです。人間ですから、感情のコントロールが上手くできない時もあるかもしれません。そのような時こそ、心を落ち着けて相手の善意を感じ取ることが大事なのだと思います。人の善意を理解しようとしなくて、その場の感情にまかせて相手を責めて傷つけても、お互いに苦しいだけです。不快な感情に支配されて過ごす時間は辛く空しいものになり、そこから有益なものは生まれません。笑って過ごしても、怒りの感情で過ごしても、泣いて過ごしても、一日は一日です。同じ一日ならば、気持ちの良い一日にしたいものです。相手の善意を感じた時の嬉しい気持ちを大切にしていきたいと思っています。もちろん、互いに善意で接することが大前提であり、一人一人が相手のことを思いやることは言うまでもありません。

保護者、地域の皆様のたくさんの善意に見守られ、ご理解とご協力をいただきながら、本校も教育活動を進めることができています。そして、生徒達の善意に大きく助けられ、そこから多くの感動をもらっています。新型コロナウイルスにより、これまで経験したことのないことの連続だった令和2年があと1ヶ月で終わろうとしています。互いの善意に感謝し、心穏やかに今年を締めくくれる12月にしたいと思っています。